

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 先崎 彰容

研究課題		近代日本思想史、特に戦後思想家の言説の比較的考察
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成29年度個人研究費は、以下に述べるような研究計画を実行するために使用された。本年度の研究計画は、戦後思想家の言説を比較検討することを主眼とし、特に、視座設定を明確にするために、「戦後思想家が、明治維新をどうとらえたのか」に注目した。戦後思想家の特徴として、先の大戦の強烈な経験をもとに、なぜ戦争へ向かっていったのかを、「明治以降のわが国の近代化の帰結」と見做し、明治維新を問い直すという作業がある。申請者は、この戦後思想家の特徴に注目することで、明治維新时期を直接考察するのではなく、「その後」の維新イメージの系譜を探る試みをしたことになる。具体的には、橋川文三・江藤淳などが、どのようなイメージを明治維新时期に持っていたのかをめぐり研究が中心となった。
	研究成果	「個人研究費」を用いた今年度の研究成果と、次年度に対する反省点を以下、簡潔に述べることにしよう。まず研究成果として、本年は以下の三冊の著作物を刊行した。『未完の西郷隆盛』(新潮選書)、『100分de名著 南洲翁遺訓』(NHKブックス)、全訳・解説『文明論之概略』(角川ソフィア文庫)である。とりわけ『未完の西郷隆盛』は、上記した戦後思想家が、西郷隆盛をダシにして、自らの思想をどのように展開し、独自の明治維新像を組み立てたのかを考察したものであり、今年度の研究成果として、特筆できると考えている。反省点として、学術研究の著作執筆時間と講演・書評・雑誌原稿等に忙殺された関係から、学会発表の時間をつくることができず研究会等の小さな発表のみに終わったことから、次年度は学会発表にも積極的にかかわりたいと考えている。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①単著：先崎彰容 『未完の西郷隆盛』、新潮選書、2017年12月 ②単著：先崎彰容 『100分de名著 南洲翁遺訓』、NHKブックス、2017年12月 ③単著：先崎彰容 全訳・解説『福沢諭吉 文明論之概略』、角川ソフィア文庫、2017年9月
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	①書評：先崎彰容 「浦辺登『玄洋社とは何者か』書評」、週刊読書人、第3206号、2017年9月8日、6面 ②雑誌投稿：先崎彰容 「“善意”のその大きな声は、フクシマを救うのか?」、『中央公論』、4月号、2017年3月10日、166-171頁